

2020年4月23日

【環境省】 ポジティブインパクトファイナンス・タスクフォース（第1回）

第一生命のインパクト投資

第一生命 総合審査部

竹内 直人

一生涯のパートナー

第一生命

 Dai-ichi Life Group

お客さま・社会に寄り添うESG投資は第一生命の使命

第一生命グループのミッション（存在意義）

一生涯のパートナー

お客さまのニーズ

社会課題

保険の引受

資産の運用 = ESG投資

生命保険の商品
・サービスの提供

+

運用収益の獲得と
社会課題解決の両立

お客さまのQOL向上に貢献
(クオリティ・オブ・ライフ = 生活の質)

第一生命のESG投資の基本方針

- 中長期視点で幅広い資産を保有する機関投資家（ユニバーサル・オーナー）として、ESG投資を資産運用の柱として位置づけ、運用収益の獲得と社会課題解決の両立を目指す
- “第一生命らしい” ESG投資として、「ポジティブ・インパクトの創出」や「エンゲージメント」に力点を置いた取組を推進

① 全資産の運用方針・運用プロセスにESGを組込（2023年度完了を目標）

運用収益獲得と社会課題解決を両立する資産ポートフォリオの構築

- 各資産の運用方針やポートフォリオ構築プロセス、社内投融資ランクへのESG要素組込により、全資産で気候変動リスク等を踏まえた投資判断を実施し、ESGリスクの低減・機会の収益化を通じて、中長期的なポートフォリオのレジリエンスを強化
- 社会の持続可能性の観点から高いリスクを有するセクターへの投融資を禁止（特定の兵器製造企業、国内外の石炭火力発電・石炭採掘事業）

② 当社が設定する重点的な社会課題の解決に向けた投融資（2023年度迄に累計投資金額を倍増以上）

社会課題解決に資する資産への投融資を通じて社会へのポジティブ・インパクトを創出

- グリーンボンド・ソーシャルボンド等のSDGs債や国内外の社会インフラ整備に資するSDGs事業等に積極的に投融資
- 革新的なイノベーションの創出に向け、成長企業・ベンチャー企業への投資（インパクト投資）を拡大

重点的な社会課題

QOL向上

貧困撲滅・格差是正・個人資産形成・健康寿命延伸・女性活躍等の推進、各種イノベーションの創出を促進

気候変動の緩和

再生可能エネルギーの普及等の低炭素社会への移行促進、革新的な環境イノベーションの社会実装支援

地方創生・地域活性化

地域産業の成長・事業創出支援、産官学連携による地域活性化への貢献（街づくり等）

- 社会的インパクトのモニタリング手法を確立し情報開示を強化（当社運用ポートフォリオのCO2排出量や、投融資を通じたポジティブ・インパクト創出量について検討）

③ 投資先企業のESG取組促進に向けたスチュワードシップ活動

投資先企業との対話（エンゲージメント）を通じて、社会課題解決に向けた企業の前向きな取組や行動変容を後押し

- エンゲージメントの主要テーマとして「ESG取組」を設定し、投資先企業のESG課題に応じた情報提供および解決策の提案を実施
- 「気候変動の緩和」に向け、企業の気候変動取組の促進や、気候変動がもたらす財務インパクトを含めた情報開示を促す
- 投資先企業を含む社会全体への影響力の発揮に向け、国内外の協働エンゲージメント団体やイニシアティブ等へ積極的に参画
- 成長ステージ毎に異なる投資先企業の課題に寄り添ったエンゲージメントを通じて、対話内容も踏まえた適切な議決権行使を実施

(参考) 2023年度末までにESGインテグレーション完了

- ESG要素を体系的に投資プロセスに組み込み、運用収益獲得と社会課題解決を両立するポートフォリオを構築
- ESGリスクの低減・機会の収益化を通じ、中長期的なポートフォリオのレジリエンスを強化

現状

目指す姿 (2023年度末)

リサーチへの ESG組込

株式・社債の投融資ランクにESG要素を組込

- 投融資先企業のESG取組を分析し、株式・社債の社内投融資ランクのマッチ調整を実施 (2019年度：気候変動影響分析を反映)
- 2020年度：ESGアナリストを設置

全資産のリサーチプロセスへ組込

- 企業評価だけでなく、国債等の資産でも組込を順次開始

ポジティブ・ スクリーニング

ESGインハウス運用

国内外株式の一部で運用中

- ESG評価が高い企業でポートフォリオを構築 (国内株式：2010～、外国株式：2019～)

全資産の運用方針・運用プロセスへ組込

- 資産配分の決定・各資産の投資判断においてESG要素を体系的に考慮
- 保有不動産の消費電力ゼロ・カーボン化を前倒し達成 (2020年代後半)

ネガティブ・ スクリーニング

社会の持続可能性の観点から投資除外

- 兵器製造企業 (クラスター弾、生物兵器、化学兵器、対人地雷等)
- 国内外の石炭火力発電・石炭採掘事業

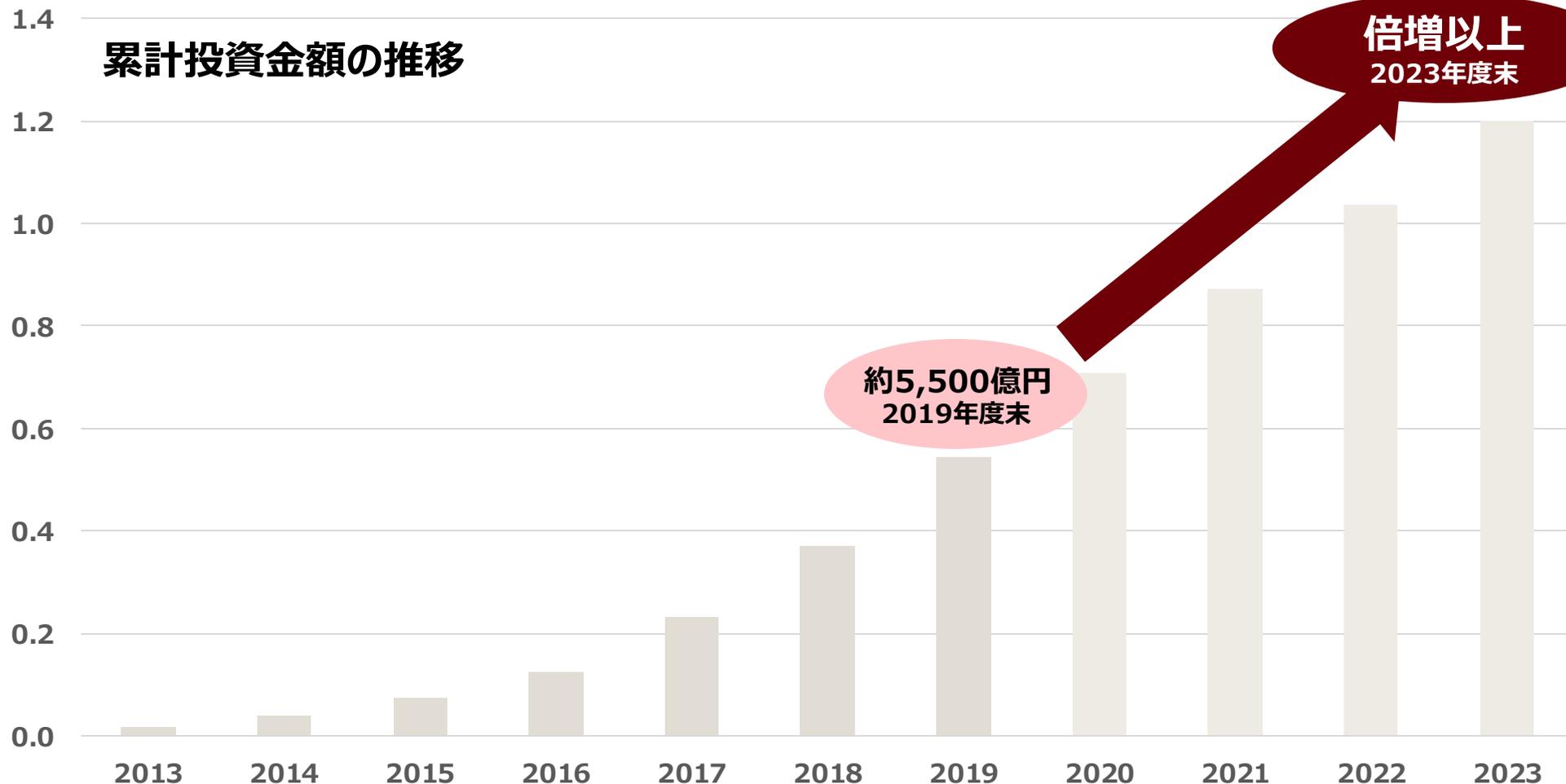
国内外の社会情勢等も踏まえつつ、持続可能性の観点による対象追加を継続的に検討・実施

(参考) 2023年度末までにESGテーマ型投資を倍増

- 「QOL向上」・「気候変動の緩和」・「地方創生・地域活性化」を中心とした投融資の累計は約5,500億円に到達
- 更なる社会へのポジティブ・インパクト創出に向けて、2023年度までに投資金額を倍増以上に拡大

(兆円)

累計投資金額の推移

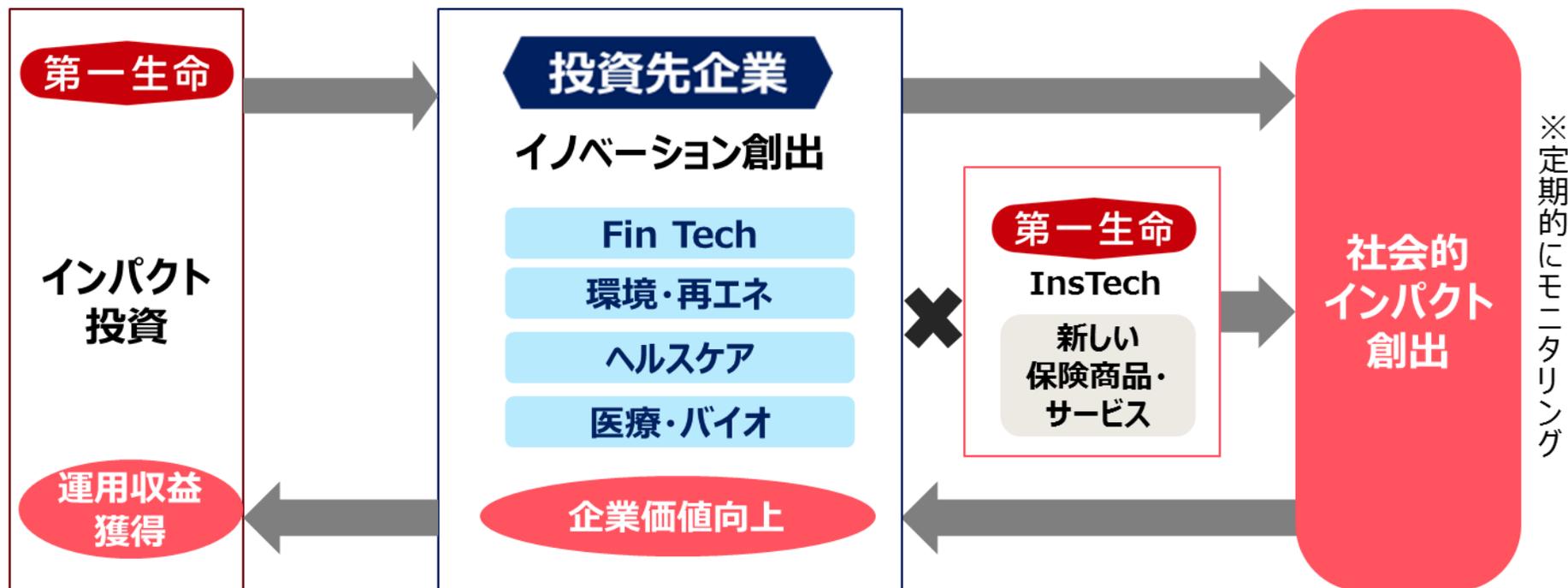


第一生命におけるESG投資手法の定義

インパクト投資は2017年より開始

ESG投資手法	定義
ESGテーマ型投資	収益性を前提とした、社会課題解決に繋がるテーマを持った資産等への投資
インパクト投資	運用収益の獲得と社会的インパクトの創出（社会の構造変化等）の両立を意図して投資判断を行う投資手法
その他	SDGs債への投資、再生可能エネルギー発電関連のプロジェクト・ファイナンス、地方創生・地域活性化に資する投融資等
ESGインテグレーション	投資プロセスへのESG要素の体系的な組込
リサーチへの組込	企業分析・評価においてESG要素を体系的に組込
ポジティブ・スクリーニング	ESG格付等が高い企業でポートフォリオを構築
ネガティブ・スクリーニング	特定の業種・企業等をポートフォリオから除外
ESG対話	ESG課題に関する、投資先企業とのエンゲージメント活動

第一生命におけるインパクト投資の狙い



(案件選定の視点)

① 経営者が社会課題解決に向けた**明確なビジョン**を有していること

② 社会的インパクトの**実現可能性**

事業の革新性

×

市場シェア

(インパクト評価の手法)

投資前に「インパクト評価のKPI」設定を**経営者と合意**し、定期的なモニタリングを実施

インパクト投資の実績（一覧）

投資残高 66 億円（15 件）

一生涯のパートナー

第一生命

Dai-ichi Life Group

8

	企業名	事業概要	投資金額	企業名	事業概要	投資金額
QOL向上	 CureApp	ニコチン依存症等の治療アプリの研究	10億円	 QD LASER	低視力患者向けアイウェア等の開発	3億円
	 SUSMED Sustainable Medicine	不眠症治療用アプリの研究・開発	1億円	 Neurotrack	目の動きで認知機能を測る「認知機能テスト」等の開発	8億円
	 MELTIN	危険環境下の労働代替が期待できるアバターロボットの開発	3億円	 Integral Geometry Science	乳がんの早期発見を実現する診断システムの開発	2億円
	 MOLCURE	AIを活用した医薬品開発プラットフォームの開発	1億円	 UniFa	スマート保育園の実現に向けたIoTやAIを活用したソリューションの開発	3億円
	 豊中市 CureApp	CureAppが事業者を担う豊中市の禁煙事業を対象とする世界初の禁煙ソーシャル・インパクト・ボンド	1千万円			
気候変動	 Spiber	化石燃料を原料とした素材に代わる新世代バイオ素材の開発	10億円	 株式会社 環境エネルギー投資	環境・エネルギー分野に特化したベンチャーファンド	10億円
	 Challenergy	「台風でも発電できる」風力発電機の開発	2億円			
その他	Gojo & Company, Inc.	発展途上国におけるマイクロファイナンス事業	10億円	 CROWD CREDIT	「融資型クラウドファンディング」サービスの提供	1億円
	 Life is Tech!	中高生向けにIT・プログラミング教育サービスを開発・提供	2億円			

気候変動関連のインパクト投資事例

事業概要

投資金額

社会的インパクトの測定指標 (KPI)



化石燃料を原料とした素材に代わる新世代バイオ素材の開発を行うベンチャー



10億円

2017/9
投資

13 気候変動に
具体的な対策を



化石燃料を原料とする
素材の代替による
CO2排出削減効果



台風でも発電できる風力発電機の開発を行うベンチャー



2億円

2019/3
投資

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



ディーゼル発電の
代替等による
CO2排出削減効果



株式会社環境エネルギー投資

環境・エネルギー分野に
特化したベンチャーファンド



10億円

2019/3
投資

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



投資先企業の
再エネ発電量等による
CO2排出削減効果